

## 宮崎大、先導的 IT セミナー「関数プログラミング入門」を開催

宮崎大学では12月17日(金)、(株)IIJ イノベーションインスティテュート主幹研究員の山本和彦氏をお招きし、先導的 IT セミナー「関数プログラミング入門」を開催した。会場には、学生・教員あわせて約80名の参加者が集まった。

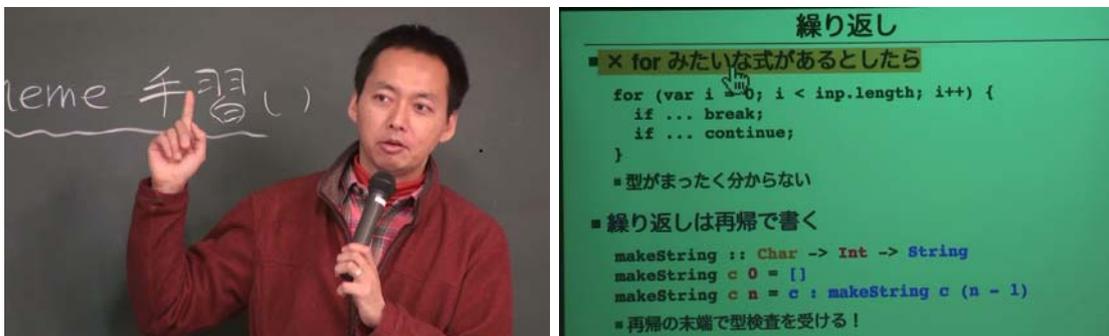
C、C++、Java、Python、Ruby、Perl など、よく耳にするプログラミング言語は、すべて「命令型」と呼ばれる言語であり、「関数型」言語ではない。関数型言語 Haskell には、繰り返しを記述する for 文は存在しない。for 文なしで、まともなアプリケーションが作成できるのだろうか。山本氏は、オープンソースのメールリダ Mew の開発者、次世代インターネット通信プロトコル IPv6 の研究者として著名である。今回、山本氏は関数型言語 Haskell の魅力を熱く語った。

山本氏は、C. Crockford 氏のエッセイ「JavaScript: 世界でもっとも誤解されているプログラミング言語」に「不格好な for 文」という一節を発見し、「for 文を使うことは不格好なのか」と驚いたこと、結局、それは単に for 文以外の表現方法を知らなかっただけのこと、と自身の体験を紹介された。また、長い間 C、Lisp でプログラムを書いてきたが、いろいろなプログラミング言語が世の中に現れてきたため新しい言語を学ぶ必要性を感じ2006年に JavaScript、2007年に 関数型言語 Haskell を学びはじめたこと、Haskell を使い web サーバを開発し、mighttpd (マイティー) と名付けて公開していること、現在では、ほとんどのソフトウェアを Haskell により開発していることを紹介された。

関数型言語を学ぶ動機として、「なぜバグはなくなるのか、なぜ他人の書いたコードは読みにくいのか、それは、あまりにも自由にプログラムを書くためである」と問題を提起された。「他人が理解できるよう、バグの入りにくい、小さなプログラム(関数)をくっつけてプログラムを作ることが重要である」ことを強調し、関数プログラミングによる規律あるプログラミングを勧められた。講演の後半では、関数型言語 Haskell の使い方を丁寧に説明された。

新しい言語を学ぶのは大変である。特に、はじめの一步が難しい。新しい言語を学ぶ機会を提供するため、今回は、特別に、休憩をはさんで、Haskell 未経験の参加者向けに、各自が持ち込んだノートパソコン上で、Haskell の演習を実施した。この演習には25名の学生・教員が参加した。講演者・参加者ともに熱心に取り組んだため、予定時

間を 1 時間延長して終了した。



山本氏によるセミナーの様子